

●がん検診の勧め

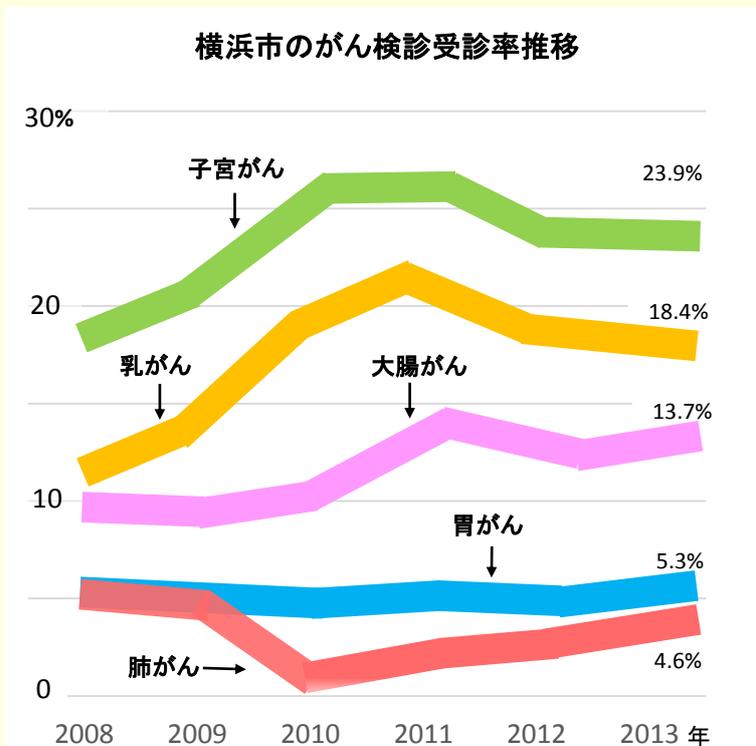
■「検診」と「健診」のちがいについて：

健診とは健康診断の略で、対象の病気を定めず、身体に異常がないかどうかを調べるための検査です。それに対して、検診とは胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、肺がん検診、子宮がん検診などのように特定の病気に絞って調べる検査のことです。

■がん検診の流れ：

特に自覚症状のない方が、がん検診の一次検診を受け、異常があるのかないのかを振り分けられます。この時点での「異常あり」は異常のあるものも疑いのあるものも含まれています。次に「異常あり」は精密検査(二次検診)を行い、「異常なしあるいは良性の病変」の場合はここで終了となり、「がんと診断」の場合は医療機関で治療を受けることになります。

■がん検診の現状：下図は横浜市衛生研究所資料より引用しました。



★神奈川県は都道府県別がん検診受診率ではすべて全国平均以下です。

★各がん検診受診率のトップは：

胃がん：山形県 40%以上、大腸がん：山形県 35%以上、肺がん：岡山県 35%以上、
乳がん：宮城県 30%以上、子宮がん：宮城県 30%以上

★国際比較：日本の乳がん検診、子宮がん検診はOECD加盟国30カ国の中で最低レベルです。欧米の検診受診率は70%以上です。

■がんは日本人の国民病：

現在、年間36万人以上の国民ががんで死亡しています。これは3人に1人が「がん」で亡くなっていることとなります。がん検診は自分と家族のために受けなければいけません。